

若手職員でスキルアップ&お悩み解消！！

新企画「Youchi Beginners Meetup」開催

長井 敬宜

関東地方整備局 用地部 用地企画課 (〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1)

用地業務の遂行に当たっては、多岐にわたる知識が求められ、多くの若手職員は心理的不安やとっつきにくさを感じている。また、コロナ禍以降人とつながりを持つ機会が減少している。

本論文は、用地課に配属された新規採用職員の悩みを取り除くと共に若手職員のスキルアップを目的とした新企画を考案し、より良い企画にするために若手職員による若葉会WG(ワーキンググループ)を置き、用地課に配属された新規採用職員に対して助言・交流を行う取り組みとして開催した「Youchi Beginners Meetup」について報告するものである。

キーワード 若手主体、WG（ワーキンググループ）、意見交換会、人材育成

1. 用地業務の概要と若手職員が抱える課題

(1) 用地業務の概要

用地業務は、インフラ整備に必要な土地の取得等を行うものである。取得する土地には農地、住宅、店舗等様々な用途がある。それぞれの土地所有者に対して補償額を算定の上、いわゆる「用地交渉（補償説明）」を複数回実施し、理解を得て契約に至るためには多岐にわたる知識が求められ、さらに説明力や経験値が必要となる。加えて、権利者調査、用地交渉記録や契約書類等の作成、登記事務、税務関係業務、発注業務など数多くの業務をこなさなければならない。

(2) 用地業務を遂行する若手職員の課題

前節で述べたとおり、用地業務の遂行に当たっては、多岐に渡る知識、説明力が必要であり、初めて用地業務をこなす若手職員に主に3つの課題がある。

1つ目は、数多くの専門知識が必要とされることで用地業務に対してとっつきにくさや独特の雰囲気、難しさがあると感じる人が多く、敬遠されていることである。

2つ目は、異動により他の職種に配置されることもあるため、用地経験を十分に積んだ係長等の中堅層が減少していることである。今後の用地業務を担う人材が少なくなっていると共に、用地経験が浅い時点で係長となり、部下を持つ可能性があるため、早期に部下をフォローアップできるような能力を身につけなければならない。

3つ目は、人のつながりの希薄化である。コロナ禍以降オンライン研修の増加や他事務所との交流を行う機会が減少し、困ったときに教えあったり、気軽に相談できる「同志」の存在を認識できる機会が少なくなり、不安

感を増長させている。また、研修後のアンケートや感想では、若手職員で一堂に会する機会が欲しいといった声も散見される。

(3) 課題解決に向けて

これらの課題の解決に当たって、若手職員の用地業務に対する心理的不安を取り除く必要性、部下をフォローする仕方を学ぶ機会を設ける必要性、若手同士のつながりを強化する必要性を認識した。そこで、筆者による立案、課内プレゼンテーションを経て、新規採用者（20名）にターゲットを置き、年齢の近い用地経験3~5年目の職員が集まりWG（ワーキンググループ）で議題検討を行った後に、新規採用職員の悩みに対する助言を行う「若手交流会（仮称）」を行うこととした。

2. 若葉会の設立

(1) WGについて

用地経験3~5年目の職員7人で行った。2週間に1回WGを行い、1回目のWGにおいて名称を議論し、用地経験3~5年目職員の集まりを「若葉会」、新規採用職員の悩みを解消するための「若手交流会（仮称）」を「Youchi Beginners Meetup」（以下「YBM」という。）とした。

(2) WGの開催方法

若葉会の中には遠方の事務所に所属しているメンバーもあり、毎回WGのために本局までの往復は業務に支障が出るため、基本的にはTeamsでのWEB会議で行った。

ただ、第1回WGで、早い段階で打ち解ける必要があ

るという意見があったため、第2回は対面で実施をした。
また、一堂に会する機会はWGのみであったが、情報の共有やコミュニケーションはMicrosoft Teamsのチャット機能を活用した。

	開催日
若葉会WG①	2024年11月26日
若葉会WG②（対面）	2024年12月5日
若葉会WG③	2024年12月17日
若葉会WG④	2025年1月8日
Youchi Beginners Meetup	2025年1月10日
若葉会WG⑤（振り返り）	2025年1月29日

図-1 開催日程



写真-1 若葉会WG①開催風景

(3)WGの実施内容

YBMに向けた課題検討に対して考えの共有や見直し、アンケートで取り寄せた悩みに対する解決策の共有を行った。目的は、より良い企画内容にするため、考えの共有を行うことで若手同士のスキルアップ、同じ用地経験者同士の横のつながりの強化である。WGを通してYBM当日の内容についても合議し、前半は講義形式による助言、後半は意見交換会を行うことに決定した。

また、筆者は日程調整や資料の取りまとめ、司会進行を務めるほか、課内の上長との共通認識を図った。

(4) 事前アンケートの送付

WGを置く以前の2024年10月に行った用地経験1~4年目の職員を対象としたアンケートにおいて、新規採用職員からの悩みを取り寄せていたが、簡素な記述が多かった。そのため、新規採用職員の現時点におけるニーズに応えられるようにWGで「Youchi Beginners Meetup」に向けた事前アンケート」をMicrosoft Formsで行うことを決定した。

内容は、お悩み項目の確認やお悩みに対する具体的な記述、意見交換会のテーマの募集である。また、より実りのある助言ができるようにアンケートの回答の背景などさらに具体的な内容のヒアリングを行った。

(5) 事前アンケートの結果（お悩み確認）

用地課に配属となった新規採用職員（20人）へアンケートを行ったところ、14/20(70%)の人が「補償額算定書の見方」で悩んでいること、またはつまづいた点があるがあるとわかった。「用地交渉記録の書き方」も悩んでいると回答した人が同数の14/20(70%)であった。

その他、複数回答可とした「悩んでいること、つまづいた点がある項目」に対する回答としては「地権者への説明・アポ取り」が11人、「税務関係」が10人、「業務発注」が10人、「土地評価」が8人と回答数が多かった。

この結果から、YBMで行う若葉会メンバーの助言項目は8票以上回答があった「算定書の見方」、「交渉記録の書き方」、「地権者への説明・アポ取り」、「税務関係」、「業務発注」、「土地評価関係」とした。

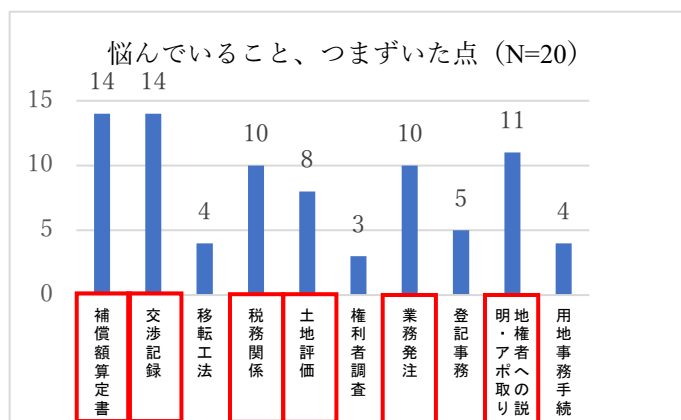


図-2 事前アンケート結果

(6) WGでの副産物

WGで補償額算定書のお悩みの解消を話し合う中で、悩みを解決できる研修資料が用地部イントラの目立たない箇所に掲載されていることを知っているメンバーがいた。有益な資料であったので、わかりやすい箇所に掲載するとともに周知を行い、日常業務の改善に繋がった。

3. Youchi Beginners Meetup開催

若葉会にて周到に準備したYBMを2025年1月10日の午後1時15分からさいたま新都心合同庁舎2号館5階共用中会議室503において満を持して開催。参加者数は若葉会メンバーが7人、新規採用職員が19人であった。

(1) 若葉会メンバーからの発表

YBMの前半では、事前アンケートで回答の多かった6項目について、若葉会メンバー全員が1~2項目を講義形式で助言を行った。自己紹介の後、失敗談やおすすめの現場の昼食などアイスブレイク用の話題を用意しつつ、用地業務を行う上での新規採用職員の悩みが解消できるような先輩職員の考え方や業務のコツなどを発表した。

(2) 意見交換会

YBMの後半は意見交換会を行った。3班に分け、新規採用職員6~7人に対し若葉会メンバー2~3人の合計8~10人で行った。意見交換の内容としては、事前アンケートで回答のあった悩みや前半行った若葉会の発表の深掘りに加えて、「2年目になったらどのように環境・心構えが変化するか」など事前アンケートで募集したテーマを設定した。

また、YBM終了後、意見交換会の班でTeamsのグループを作成し気軽に開けるコミュニティーの形成を行った。



写真2 若葉会の発表風景



写真3 意見交換会風景

4. アンケート結果（抜粋）と成果

YBM終了後に新規採用職員、若葉会メンバーに向けてそれぞれアンケートを行った。

以下はアンケートの結果（抜粋）とその成果である。

(1) 参加者（新規採用者）

a) YBM全体に対するアンケート結果

YBM全体に対しての評価としては参加者14/19（74%）が「非常に参考になった」、5/19（26%）が「部分的に参考になった」と好評であった。記述欄では、「アンケ

ートで回答したつまずいた箇所を説明してもらえたので不安が解消できた」、「用地業務で分からないことを丁寧に解説していただいたので、非常に勉強になった」などの回答があった。

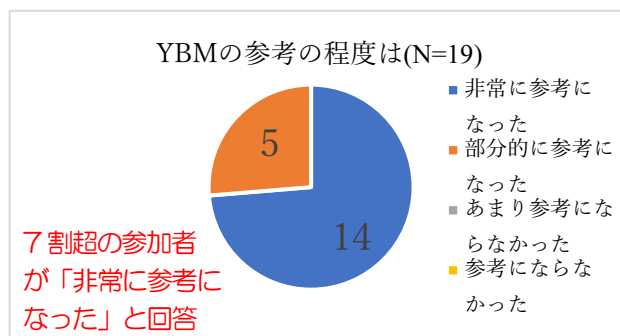


図3 新規採用職員が回答した「YBMの参考の程度」

b) 若葉会の発表・意見交換会に対するアンケート結果

若葉会の発表については15/19（79%）が「満足」、4/19（21%）が「やや満足」と好評であり、「研修以外で算定書の見方を細かく教わったことがなかったののためになった」、「交渉記録などの普段困っている業務について参考になった」などの声があった。

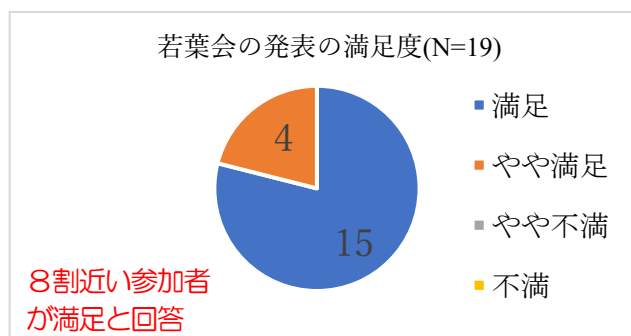


図4 新規採用職員が回答した「若葉会発表の満足度」

意見交換会についても14/19（74%）が「満足」、5/19（26%）が「やや満足」と好評であった。記述欄では、「他の同期の業務内容や悩みが聞けて自分一人ではないという安心感を持てた」、「違う事務所の雰囲気や不安なことなど共有できたので良かった」などの声があった。

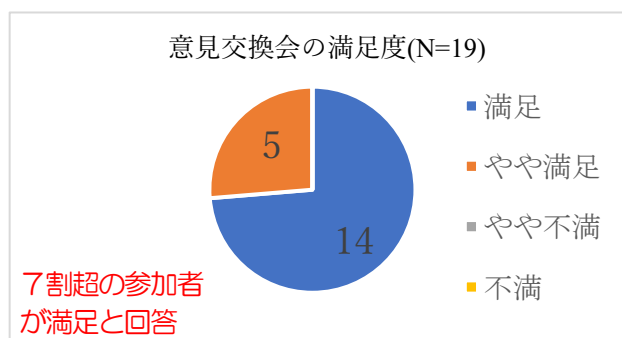


図5 新規採用職員が回答した「意見交換会の満足度」

c) 成果

アンケート結果から、新規採用職員の用地業務に対する悩みやとっつきにくさの解消に貢献したことがわかる。

また、「先輩方や同期と気軽に話せるいい機会だった」、「同期や年の近い先輩方と交流することができ、大変有意義な時間を過ごすことができた」という声が多く、複数開催を望む声もあることから、今回のYBMが横・縦・斜めのつながりの強化への貢献を実感した。

(2)開催者（若葉会メンバー）

a)WGや発表準備に関するアンケート結果

若葉会メンバーに対しての「YBMを通して、今後の新たに部下を持った際の接し方やアドバイスについて研鑽する場になりましたか」という質問に対して5/7（71%）が「なった」、1/7（14%）が「まあなった」と回答した。記述欄では「勉強しなければならないと再度思った」、「教える側を経験する機会はまだ少ないので、よい経験になった」などの声があった。

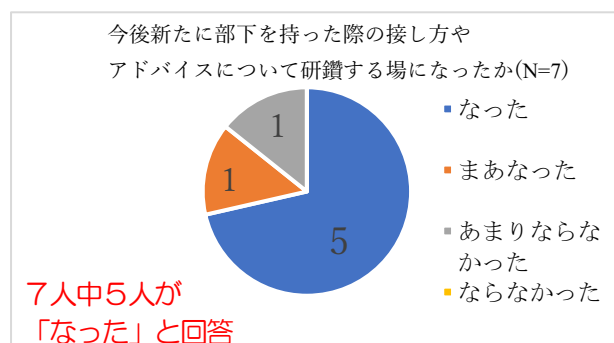


図6 若葉会メンバーが回答した「今後新たに部下を持った際の接し方やアドバイスについて研鑽する場になったか」

b)若葉会の発表・意見交換会に対するアンケート結果

YBMの満足度に関して、発表者側である若葉会メンバーは2/7(29%)が満足、5/7(71%)がやや満足と、新規採用職員は高評価であったのに対して満足度が比較的低いという乖離が見られた。記述欄では、「自分の至らぬ点が何点か見受けられた」、「伝えたいことは話せたが、発表に時間がかかってしまった」などの声があった。

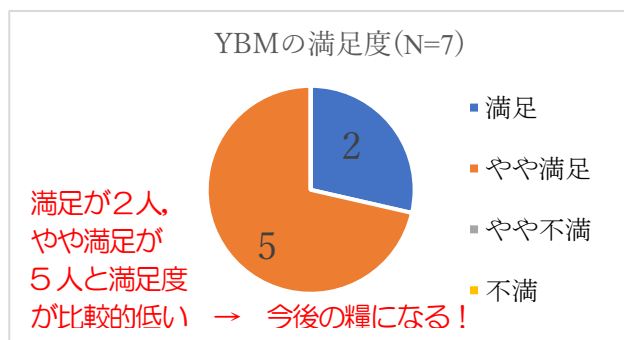


図7 若葉会メンバーが回答した「YBMの満足度」

c) 成果

アンケート結果から、若葉会メンバーにおいて、近い将来部下を持つことになる立場の担当職員に対しての意識向上の場として一定の成果が得られたことがわかる。

また、新規採用職員と若葉会メンバーの満足度の乖離は、発表の時間が予定より長引いたことや実際に説明を行う上で未熟さを感じたからであると考えられる。前者は来年度以降の改善点となり、後者は今後の業務を遂行する上での意識の向上や能力を向上させる一助になる。

そして、若葉会メンバーにおいても「普段関わり合っていない職員と交流できた」や「若葉会メンバー間でのつながりが増えた」との声があった。コロナ下での採用で希薄になっていた横のつながりの強化を確認できた。

5. 今後の若葉会WGとYBMの取り組み

(1) WGの頻度・期間

今年度は初めての試みであったため、WGをYBMまでの約1か月半で4回行ったが、この頻度・期間について改善点があると考えられる。限定した期間でのWGで若葉会の発表項目の方針決定や考えの共有等を行うのではなく、来年度は長期的に若葉会発表の内容の深い議論も行うことで若手職員のさらなるスキルアップに繋がり、持続的な取り組みにもなる。

(2)YBM当日に直面した課題

当日若葉会の発表時間が長引いてしまい、意見交換会の時間が予定より短くなってしまった。次回は若葉会の発表項目の数を少なくすることや2回開催として発表項目を分散させるなど日程の再検討を行う必要がある。

(3)フォローアップを行う対象職員

今年度は新規採用職員を対象として行ったが、新規採用職員以外にも用地経験1年目の職員がいることや、用地経験2年目の職員の参加ができていないという課題がある。また、近年では、係長級で採用され初めて用地に携わるケースも増加しており、フォローを行う必要がある。来年度は、今年度参加の対象ではなかった職員も参加できる仕組みの検討を行い、実現することで若葉会WG・YBMを持続的な取り組みとしていきたい。